

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第34号

平成28年10月11日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

第24回 教育文化センター合同サークル展

スクリーン紙芝居「正成、正行の生涯」上映

製作「日本教育紙芝居協会」を扇谷が補作

大型スクリーンの紙芝居、大好評

9月18日(日)、四條畷市立教育文化センターで第24回合同サークル展が開催された。

このサークル展は、教育文化センターと教育文化センター利用サークル連絡協議会が主催するもので、20を超えるサークルが、「展示の部」と「発表の部」に分かれてサークル活動での1年間の成果を披露するもの。

四條畷楠正行の会では、昨年同様、展示の部に研究成果の一端を展示するとともに、今年初めての試みとして、全体のオープンセレモニーとして、午前9時30分からの30分間、スクリーン紙芝居「正成、正行の生涯」を上映した。

このスクリーン紙芝居「正成、正行の生涯」は、原作：紙芝居「楠公父子」、脚本：鈴木景山、絵画：鳥居清言、製作：日本教育紙芝居協会を、扇谷が補作の上、四條畷楠正行の会が、スクリーン映像としてカラー化し制作したものの。

この日、スクリーン映像の読み手は扇谷、そしてバックで流すピアノ演奏は川口さんが担当した。

17日の土曜日にリハーサルをしたが、準備で集まった多くの方にも聞いていただき、好評をいただくとともに、アドバイスも頂戴した。お陰様で、本番では、アドバイスに基づき、ピアノ演奏の前奏で始まるように企画を変更した。

本番では、スクリーン映像紙芝居上映の前に、川口さんがピアノ演奏「桜井の別れ」を演奏し、ムードが高まったところで、上映スタートとなった。

上映は、約16分間で、前半が正成の生涯、そして後半が正行の生涯で、会場からはすすり泣きが聞こえるほどで、上映は大成功の内に終了した。

映像スクリーン紙芝居「正成、正行の生涯」の冒頭部分2枚を以下に紹介する。



足利尊氏との和睦、天皇の比叡山臨幸と云う 正成公の献策もむなく、後醍醐天皇の「正成、兵庫に下るべし」との命を受け、菊水の旗をなびかせて、正成公に従う兵(つわもの)ども今も 京都から兵庫へと、西国街道を進んでいます。山崎を西に去って 桜井の駅 ここは 西国街道と、故郷河内への別れ道 摂津国桜井の駅に、しばし楠木の全軍は、休みました。



(正行)

「えっつ、父上。正行に、ここから河内へ帰れとは…。」

正行を それ程 不甲斐ない者とお考えですか。いやです。正行は帰りません。

父上と共に、兵庫へまいります。そして、正行も戦います。」

(正城)

「正行。お前ひとりだけが 故郷へ帰るのではない。
静かに聞け。お前は、これから 恩智左近、和田太郎、八尾、湯浅の諸将と共に二千二百の兵(つわもの)を連れて 金剛山に帰るのだ。」

展示の部

「四條畷の合戦要図」と昔の写真を掲示

展示の部は、昨年の反省を踏まえ、できる限り文字情報を減らし、「図」と「写真」中心に展示をした。

大きく二つのゾーンに分け、一つのゾーンには、「四條畷の合戦要図」を掲示し、その周辺に、当時がしのべる写真・絵等を配置し、現況とは全く違う四條畷の合戦当寺に、どこで、どのような戦いが行われたのか、来場者に想像していただけるような構成とした。

お陰様で、写真や図に見入る人が多く、会員から詳しく説明を加えることができた。

この四條畷の合戦要図は、扇谷が作成したものを、国府さんが拡大して印刷し、上山さんが絵の具で色つけたもの。

西に深野池、東に飯盛山と、四條畷の合戦が行われた地が、狭隘な地であることが一目でわかる。

正行は、野崎から中野辺りまで、折り返しながら、最後津野辺の地まで、一日約六時間の激闘を続けたが、刀折れ、矢つき、正時と共に自刃した。

真木書 朱舜水作・楠正行像賛も掲示

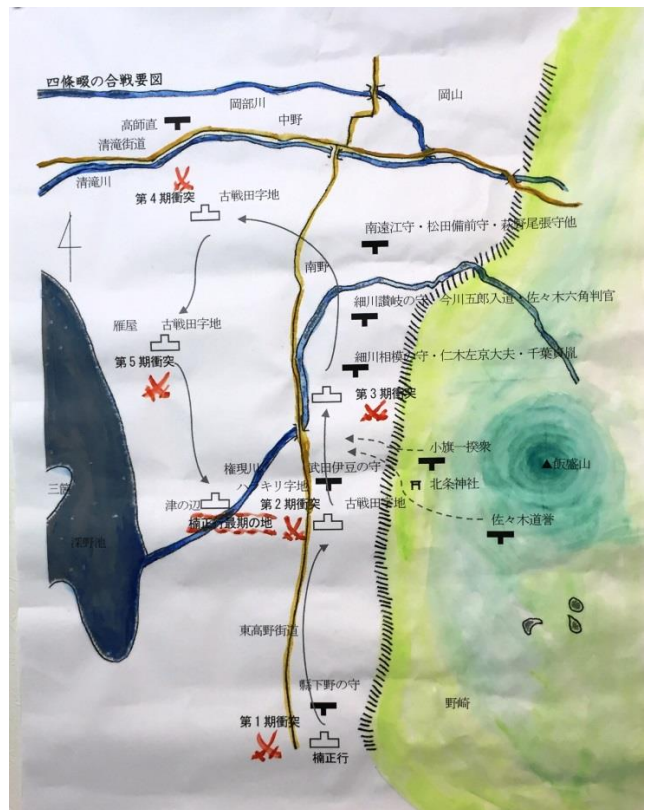
また、もう一つのゾーンには、真木さんの書による朱舜水作・楠正行像賛文を掲げ、扇谷昭の略解も掲示した。

四條畷楠正行の会では、史料の少ない楠正行の顕彰を目的に、この賛文 148 文字の啓発・普及に努めている。一人でも多くの人に触れていただき、楠正行のことを知っていただくことができれば大変うれしい。

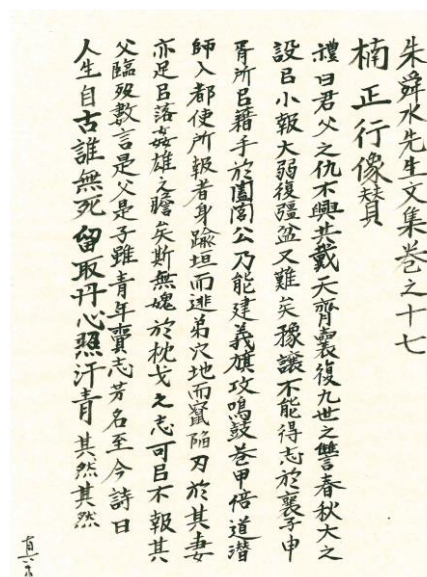
なお、この朱舜水作・正行像賛については、その全文・釈文・略解を楠正行通信 24 号に掲載しているので、ぜひ、ご覧いただきたい。



↑展示の前で打ち合せの様子



↑「四條畷の合戦要図」扇谷作成



↑朱舜水作「楠正行像賛 148 文字」真木書

(文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)



↑上映に先立ち挨拶する扇谷